

令和6年度 上尾市立大石北小学校 学校評価

〈学校評価の自己評価とは〉学校評価は、児童がよりよい教育を受けることができるよう、学校が自らの教育活動の成果を検証し、学校運営を改善し、その教育水準の向上を図ること、また、自己評価を公開し、保護者・地域の皆様の御理解を得て、学校・家庭・地域とが連携して児童を育てていくことを目的としています。学校評価の実施は学校教育法に定められています。自己評価は、児童・保護者に実施したアンケートを参考資料として作成しています。

〈評定の基準〉
A：目標をよく達成できた状態（達成度9割以上） **B**：目標はほぼ達成できたが改善が必要な状態（達成度7割以上） **C**：目標を達成できず、顕著な課題がある状態（達成度7割未満）なお、達成度は3又は4の評価の割合を基準とします。

領域	学校評価項目	自己評価	評価
A 信頼される学校運営	1.教職員間の共通理解を図りながら、児童の学校生活への適応や人間関係を形成する。	小さな気付きでも学年間で情報共有をして、相談しながら対応にあたることができている。また、教科担任制を導入したことで、学年児童を学年を担当する教職員で指導することができています。そして、児童の95%が生活のきまりを守って生活をしているとしています。さらに、スクールカウンセラー相談やにこにこ相談を25件以上行う等、相談しやすい環境をつくっています。	A
	2.学習指導要領に基づき、探求的な学習や体験的な学習を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を展開する。	学校課題研修に沿って、個別最適・協働的な学習を実施する等の改善を行い、学習の成果が出ています。児童の96%が学習にしっかり取り組んでいるとしています。確かな学力と自立する力の育成に向けて、今後も切磋琢磨しながら取り組んでいく必要があります。	
	3.様々な人権課題に対して正しく理解し、人権感覚を身に付け、人権課題を解決しようとする児童の育成に努める。	児童の人権教育計画や教職員の人権研修を通して、人権感覚の向上を図っています。しかし、人権課題は様々あり、重点課題を設定する等指導の工夫が必要です。また、教職員の人権感覚を引き続き養うことも必要です。保護者の93%が学校の雰囲気がよく児童が楽しく学校生活を送っているとしています。	
	4.児童一人一人が個性や能力を發揮して行動できる環境づくりに努める。	児童理解や生徒指導について、保護者や関係機関との連携を推進しました。校内で生徒指導・教育相談・特別支援教育について全教職員が分掌組織に参加し、連携しながら共通理解を十分に行うことができました。担任が一人で抱えることなく組織的な対応に向けた環境は、教員の97%が努めていると評価しています。	
	5.時間外在校等時間の縮減に向け、業務を工夫する。	留守番電話や登校時刻等保護者の理解をいただくほか、教職員の休憩時間や勤務時間を踏まえた会議等の設定によって、業務の見直しはもちやすくなりました。しかし、教員の19%は取組に不十分と評価しました。依然として業務は多岐にわたり、教科指導の準備等を勤務時間後に行わなくてはならない現状があります。業務の工夫が必要です。	
<p>【学校関係者評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○積極的に学習に取り組んでいる児童が多い反面、消極的な児童が置かれてしまいがちだが、学年間の情報共有ですくい上げることができているから信頼に繋がっています。 ○主体的・対話的で深い学びができていてすばらしいです。 ○教科担任制を導入したことで学年児童の情報の共有化が進み、評価結果から教職員のチームワークの良さが良い結果を生み出したものと評価できます。 ○児童一人一人に能力を發揮させるために、教職員が組織的に対応していることはすばらしいです。 ○保護者からの信頼度が高くすばらしいです。 ○時間外在校等時間の縮減に向けて業務を工夫している様子が伺えます。これからも管理者自ら縮減に向けて努力してください。 ○時間外在校等時間の縮減についてはさらに精査して実施の方法を工夫する必要があります。 ○働き方改革はよいが、家庭への問い合わせ、連絡網の廃止によって困る保護者もいるのではないかと思います。 ○時間外在校等時間の課題は職員間のローテーション等行うとよいです。 ○業務効率向上に他校、企業の取組も参考にしてください。 			
B 豊かな教育活動	6.児童一人一人が「自分のこととして」深く考えることができる道徳の授業を行う。	学年の実態に応じて、学年担当教員が学年でローテーションを組んで授業を行いました。そのことで教材研究をより深く行うことができ、児童も様々な教員の授業を受けることで多様な学びの機会をつくることができました。また、他教員の授業を参観することで課題設定や導入を工夫することができ、活発な話し合いをする児童が増えました。心の教育については保護者の86%が学校の取組をできていると評価しています。	A
	7.児童が安全に対する意識をもって、主体的に運動する体育の授業を行う。	昨年度の備品等の整理整頓への課題を踏まえて、用具の管理を見直しました。児童が主体的に準備片付けを行い、安全な学習につなげることができました。器械運動等単元によってはケガが多く、安全に活動する場と運動をする上で安全指導を徹底する必要があります。児童の86%が運動をすることが好きだと答えています。	
	8.健康・食・安全に関する教育を、計画的に実施し、児童が適切な行動をとることができるように指導する。	担任が栄養教諭、養護教諭と連携して計画的に実施しました。特にアレルギーや身体的に配慮が必要な児童については全校で確認を行いました。教職員の94%が適切な行動と評価しています。避難訓練は、火事、不審者、地震の各想定のもとで3回行いました。施設の点検では、教職員による定期点検の他、学校運営協議委員会にも点検を行っていただき、段差や角地等の対策を講じることができました。	
	9.「上尾市英語力向上プラン」に基づいて、ALTと連携を図り、主体的な活動を取り入れた外国語等の授業を工夫する。	外国語専科教員が、ALTと連携しながら児童がコミュニケーション活動において主体的に活動に取り組める授業を行いました。児童が楽しみながら学ぶ姿が見られました。1・2年生の授業の様子は全クラス公開授業を行いました。児童の86%が英語の授業が楽しいと答え、保護者の90%が教育を適切に実施しているとしています。	
	10.ICT端末、大型モニタ、デジタル教科書、アプリケーション等を活用して、ねらいに応じた効果のある授業を工夫する。	児童が、機器の扱いに慣れてきています。低学年からの積み重ねの成果だと考えられます。調べ学習や主体的な学習活動において活用することが日常となりました。授業活用だけでなく、自習課題や宿題、課題提出にも活用しています。教職員の94%が工夫していると評価しました。なお、デジタルシティズンシップの観点から情報モラル等を身に付ける指導計画をさらに工夫していく必要があります。	
11.身の回りの環境と積極的に関わり合い、主体的に行動できる教育活動を工夫する。	環境委員会を中心に地域の方やPTAと協力してビオトープを維持し、学習に活用しています。また、児童の主体的な学びの場として、校内にくすどり博物館を設けて活用しています。1学年の鈴虫の観察、昔の遊び体験、2学年のさつまいも体験、ホテル観賞会等の学びは学校応援団の協力を得て行いました。		

	<p>【学校関係者評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳授業の工夫により、活発な話し合いが多くなり、深い思考力が発揮されるのはすばらしいです。 ○避難訓練を見学したが、児童たちが迅速な対応、適切な行動ができていました。 ○施設の点検に関しては、教職員や大人の点検や修理をしている姿を見て児童たちの安心感に繋がっています。 ○器械運動等のケガは大きなケガにつながるので、安全への指導をさらに徹底してほしいです。 ○体力の低下が言われていますが、運動場所や時間が減っているからかと考えます。学校でもそのような時間を設けてほしいです。 ○アレルギーや身体的な配慮が必要な児童が増えている中で、健康・食・安全に対する教育を担当が栄養教諭・養護教諭と連携して計画的に実施していると評価できます。 ○どこのクラスも英語の授業は楽しく元気よくやっている様子が見られます。 ○ALTとの連携により、外国語に興味を示し、楽しみながら学ぶ姿が見られて、頼もしいです。 ○英語について、まずは嫌にならない工夫があり、とても好感です。 ○ICT端末のルールをどこまで定めるか、また手書きの有効性とのバランスを考え、学習実践をお願いしたいです。 ○今後教科書の電子化が進む報道がある一方、字を書く機会の減少、SNSトラブルのリスクもあるので難しいところも多く、整理が必要です。 ○学校が地域に開かれているので、様子もよくわかり、先生方の努力や心情も伝わってきます。 		
C 健全な児童の育成	<p>12.いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの早期発見・早期対応を組織的に行う。</p>	<p>いじめ認知を積極的に行うことで、生徒指導部やいじめ防止対策委員会を通じて早期対応と未然防止に努めました。いじめの認知件数は、12月末時点で79件でした。認知後の経過を注意深く観察しています。また、いじめ防止に関する研修を行う他、標語づくり、いじめ防止サミット報告会等の取組で児童の意識向上も図りました。</p>	B
	<p>13.不登校・長期欠席児童には、対応マニュアルに基づいた支援、早期発見・早期支援を組織的・計画的に対応する。</p>	<p>対応マニュアルを全教職員で確認し、担任を中心として個別に対応しました。児童や保護者の思いを受け止め、寄り添った対応を検討することや関係機関との連携を推進しました。また、不登校対策研修を実施し、組織的に対応しました。病気や経済的な理由を除いた30日以上欠席児童は、12月末で8人でした。</p>	
	<p>14.清掃活動、係・当番活動、委員会活動等を通して、人のために進んで働き、共に助け合っ生活する態度を育成する。</p>	<p>上級生の活躍する姿から、自分もそうなりたいたいという思いで活動する児童がいます。清掃活動や委員会活動等、一人一役分担制や友達の頑張りを褒める場面をつくることで、自己有用感を育てることができました。児童の96%は掃除や仕事にしっかり取り組んだと評価しています。</p>	
	<p>15.家庭・関係機関と連携して、児童の読書習慣の定着を図れるよう工夫する。</p>	<p>図書館環境を整え、読書に興味関心を引くような仕掛け（例：読み聞かせ会、ビンゴ、すごろく、絵本作り）をしました。貸出冊数は大幅に増加し、一人あたり貸出数が50冊を超えました。教職員の87%が学校の活動を評価しました。しかし、保護者の38%は家庭読書について不十分であると評価しました。家庭における読書習慣の定着の工夫は本校の課題ですが、保護者・地域と連携した対応が必要です。</p>	
	<p>【学校関係者評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○接触いじめからSNSによるいじめ、どちらも大変ですが「見えない」というのは大きな弊害です。大変な時代だと感じます。 ○いじめの防止や不登校・長期欠席児童について、早期発見・早期対応を重視して取り組んでいることを評価します。 ○個人の判断ではなく、客観的、総合的、複数人での確認をお願いします。 ○不登校児童については、これからもさまざまな対策をふまえて根気よく指導をお願いします。 ○不登校対策において上尾市等関係機関との連携は大切です。 ○不登校が中学校まで継続するかもしれない過程から、小・中合同のケース会議を開くとよいのではないのでしょうか。 ○図書の貸出が大幅に増加していることは良いことです。読書は心を育てる栄養になるものです。さらに読書習慣の定着のためにさまざまな工夫をこらして指導をお願いします。 ○児童の家庭で読書する習慣の定着を図れる工夫が必要です。家庭でのゲームの時間を減らす等何とかしなければいけないです。 ○読書については、一般的に冊数だけで判断しがちだが、その本を読むことで楽しめたどうかの充実感も大切です。 ○家庭でも大人が読書をしている姿を見せること、子供の興味の本に関心を持つことも必要です。 ○児童の読書（家庭での）については、毎年課題として設定されていますが、学校だけの努力では困難であり、保護者の協力が不可欠です。 ○低学年の下校見守りでは元気すぎる児童がいます。家庭での教育にも期待します。 		
D コミュニティ・スクール	<p>16.家庭・関係機関と連携を図り、個に応じた指導を充実させる。</p>	<p>多様な課題をもつ子供の成長のために、学校が家庭・関係機関と連携しあえる環境は今後も大切になります。特別な配慮を必要とする児童については、教育支援プランを作成して、保護者との合理的配慮の形成を行いました。また、アッピースマイルサポーター4名を授業支援として各学年に配置しました。教職員の97%は指導の充実を実感しました。</p>	A
	<p>17.地域の方やゲストティーチャーなど、多様な人との関わりをつくる。</p>	<p>学校応援団や地域・企業等の多様な方をゲストティーチャーとした授業を行いました。また、毎日の登下校時の見守りでは、児童の安心安全の確保のために多くの方の支えをいただきました。コミュニケーションの基本となるあいさつについては、保護者アンケート等から課題として指摘を受けています。</p>	
	<p>18.学校運営協議会・PTA・学校応援団・他機関等を活用して、豊かな教育活動・学校行事を工夫する。</p>	<p>PTAが主体となった北小まつりでは、家庭や地域の関わりを深めることができました。教職員の81%、保護者の90%が、学校がコミュニティ・スクールとして地域と連携し、豊かな教育活動や学校行事を工夫しているとしました。</p>	
	<p>【学校関係者評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アッピースマイルサポーターの授業支援はすごく効果的です。個に応じた指導をさらに推進してください。 ○あいさつは1、2年前に比べると廊下ですれ違う児童たちのあいさつの声が減っているように感じる。特に来校者に対するあいさつは高学年が積極的にするようになると低学年の児童にもいい影響が生まれるのではないのでしょうか。 ○あいさつはコミュニケーションの基本です。人として生きていくためにとても大事なことです。特に、朝元気にあいさつできるとその日が充実した一日になります。まずは教職員から率先してあいさつを推進してください。 ○低学年の児童がしっかりとあいさつできるようにには時間が必要かと思えます。 ○学校運営協議会の議事内容がうまくPTAに伝わるよう工夫が必要です。 ○地域が参加しやすいように門戸がひらかれていて、年々協力しやすくなっていると感じます。 ○保護者のあいさつについても課題に感じます。家庭の生活サイクルの中にも入れることが必要かもしれません。 ○地域、保護者同士の係り合いの場をもっと増やせられれば良いです。 ○学校・家庭・地域との連携はこれからも大切なつながりとして大事にしてください。 		

令和6年度 上尾市立大石北小学校 学校評価

	自己評価 (31人)	肯定的評価の割合	【参考】保護者アンケート結果 (525人)	肯定的評価の割合	【参考】児童アンケート結果 (659人)	肯定的評価の割合
A 信頼される学校運営	教職員間の共通理解を図りながら、児童の学校生活への適応や人間関係を形成する。	100	学校は、児童の学力向上のために分かりやすい授業を行っている。	94	生活のきまりを守って生活しています。	95
	学習指導要領に基づき、探求的な学習や体験的な学習を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を展開する。	100	学校の雰囲気がよく、児童が毎日楽しく学校生活を送っている。	93	話をよく聞いて、学習にしっかり取り組んでいます。	96
	様々な人権課題に対して正しく理解し、人権感覚を身に付け、人権課題を解決しようとする児童の育成に努める。	100	学校は、児童の個性や能力に応じた指導を行っている。	85	先生は、よいことはほめ、わるいことは正してくれます。	98
	児童一人一人が個性や能力を発揮して行動できる環境づくりに努める。	97				
	時間外在校等時間の縮減に向け、業務を工夫する。	81				
B 豊かな教育環境	児童一人一人が「自分のこととして」深く考えることができる道徳の授業を行う。	84	学校は、児童の心の育成にしっかりと取り組んでいる。	86	運動をすることが好きです。	86
	児童が安全に対する意識をもって、主体的に運動する体育の授業を行う。	100	学校は、児童の体力向上にしっかりと取り組んでいる。	84	安全に気をつけて、登下校しています。	98
	健康・食・安全に関する教育を、計画的に実施し、児童が適切な行動をとることができるように指導する。	94	学校は、生徒の健康や安全、事故防止に配慮した教育活動を行っている。	95	英語のじゅぎょうは楽しいです。	86
	「上尾市英語力向上プラン」に基づいて、ALTと連携を図り、主体的な活動を取り入れた外国語等の授業を工夫する。	87	学校は、外国語教育を適切に実施している。	90		
	ICT端末、大型モニター、デジタル教科書、アプリケーション等を活用して、ねらいに応じた効果のある授業を工夫する。	94	学校は、連絡や児童の指導においてICT機器を効果的に活用している。	88		
	身の回りの環境と積極的に関わり合い、主体的に行動できる教育活動を工夫する。	94				
C 健全な児童の育成	いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの早期発見・早期対応を組織的に行う。	100	教職員は、生徒や保護者の相談に親身になって応じている。	89	こまったときは、先生にそうだんしています。	87
	不登校・長期欠席児童には、対応マニュアルに基づいた支援、早期発見・早期支援を組織的・計画的に対応する。	100	学校は、児童の生活指導を適切に行っている。	90	そうじやしごとにとしっかりと取り組みます。	96
	清掃活動、係・当番活動、委員会活動等を通して、人のために進んで働き、共に助け合って生活する態度を育成する。	100	児童は、家庭でも読書活動を行っている。	62	クラスや図書室の本をよく読んでいます。	77
	家庭・関係機関と連携して、児童の読書習慣の定着が図れるよう工夫する。	87				
D コミュニティ・スクール	家庭・関係機関と連携を図り、個に応じた指導を充実させる。	97	学校は、教育活動や諸連絡等を分かりやすく発信している。	86	自分から進んであいさつをします。	87
	地域の方やゲストティーチャーなど、多様な人との関わりをつくる。	81	学校は、コミュニティ・スクールとして地域と連携している。	90		
	学校運営協議会・PTA・学校応援団・他機関等を活用して、豊かな教育活動・学校行事を工夫する。	81	学校は、コミュニティ・スクールとして地域と連携している。	90		

<成果・課題を明確にするために>

桃色は95%以上で本校のよい点

黄色は85%以下で来年度の課題とする